

日本気象学会「小倉特別講義」(通称 小倉レクチャー) 設立趣旨

理事長 岩崎俊樹

小倉義光先生(イリノイ州立大学大気科学科名誉教授)は、熱対流、ハリケーン、スコールラインなどのメソスケール気象学の世界的な大家であり、非弾性方程式系の導出など数値モデリングにおいてもパイオニア的存在として、世界の気象学研究をリードする研究教育活動を続けてこられました。日本では、数々の教科書を執筆し、「一般気象学」は専門家を超えて広く読まれる気象学のベストセラーになっています。小倉先生の長年のメソ気象学研究に対して、1954年に日本気象学会賞が、1980年に日本気象学会藤原賞が贈呈されました。

2017年に、小倉先生からの多大な寄付を基にして小倉義光・正子基金が日本気象学会に設立されました。小倉先生のご功績を記念するとともに、この基金を活用するために、日本気象学会ではこの度「小倉特別講

義」を毎年1回、秋季大会にあわせて開催することを決定いたしました。「小倉特別講義」は、学会に設けられた委員会にて年ごとに研究分野を設定し、国際的に著名な研究者を招聘して広く学会員に講演を行っていただくものです。また、隣接する秋季大会で講演分野に関連するセッションを企画し、招聘研究者と国内の研究者の交流および議論の機会を設けることも検討します。「小倉特別講義」を通じて、学会員の皆様に気象学の各分野におけるこれまでの進展と最新の幅広い話題をお届けすることができると考えておりますので、ぜひ積極的な参加をお願いいたします。なお、「小倉特別講義」は一般の方にも開かれておりますので、お近くの興味がある皆様にもお声がけいただければと存じます。